

令和2年度尚学会総会におけるご意見への説明

ご意見	説明
<p>ワッショイはこだて及び大学祭の中止に伴い、その予算はどのような使い方をするのか。オンライン授業に要した費用の補助等に充ててもらいたい。</p>	<p>令和2年度の予算案では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により家計が急変した学生に対する経済的支援として、200万円を計上しておりましたが、多くの保護者の方の意見を踏まえ、また、学生救済の必要性の観点から、繰越金を用いて給付総額を300万円まで拡充いたしました。</p> <p>なお、わっしょいはこだて及び大学祭の中止に伴い、上記の学生生活支援経費による現金給付とは別に学生への支援に充てることを検討しております。</p> <p>また、オンライン授業への支援のため、大学としてノートPCの貸与を行い、また、函館校ではWi-Fi環境が整っていない学生のために一部の施設を開放して対応いたしました。</p>
<p>学生生活支援経費の給付対象を全学生にしてもらいたい。</p>	<p>函館校の危機対策室では、全学生に給付することも検討いたしました。全学生に給付した場合、一人当たりの給付額が数千円となり、困窮度の高い学生を支援することは難しいと判断し、申請いただいた上で、選考することといたしました。</p>
<p>尚学会通信を電子化し、メールで送信することで印刷代と送付代を節約すべきでは。</p>	<p>尚学会通信の発行時期は年度末となりますので、予算の執行状況を踏まえて判断させていただきます。</p>
<p>学生生活支援経費の選考に当たり、学業成績も加味していただきたい。</p>	<p>学生生活支援経費の給付対象には、新入生も含まれているため、客観的な成績評価が困難であったこと、また、人道的な観点から学業成績の基準を用いませんでした。</p>
<p>アルバイトも始められず、授業のため校舎内に入ることもできない新入生への支援をお願いします。</p>	<p>函館校では、他のキャンパスに先立ち6月からは一部対面授業が行われ、7月からは課外活動も再開しております。未だキャンパスライフを満喫することができない状況が続きますが、尚学会としても可能な支援を継続したいと考えております。</p>
<p>学生生活支援経費の予算として200万円では一部の学生しか支援できないのでは。また、減収を証明できない場合も広く支援が届くようにしてもらいたい。</p>	<p>令和2年度の予算案では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により家計が急変した学生に対する経済的支援として、200万円を計上しておりましたが、多くの保護者の方の意見を踏まえ、また、学生救済の必要性の観点から、繰越金を用いて給付総額を300万円まで拡充いたしました。</p> <p>また、選考に当たり、減収を証明できない場合は、申請書に個別の事情を記載していただくことで対応いたしました。</p>

<p>学生生活支援経費の支給対象に非会員の子弟も含めることについて、非会員の支援希望者には会員になってもらい、減免や猶予措置をとることで、給付すれば良いのでは。</p>	<p>学生生活支援経費につきましては、可能な限り早く給付することを優先させていただきました。会員ではない方に対しては、給付対象となったかどうかに関わらず、会員となっていただくよう働きかけていきたいと考えております。</p>
<p>学内全体に Wi-Fi 環境を整えてほしい。</p>	<p>学内全体に Wi-Fi 環境を整備することも検討いたしましたが、自宅等にネット環境が整っていないため、遠隔授業を大学で受信しなければならない学生は少ないことから、使用できる教室等を限定し、新型コロナウイルスの感染予防策を徹底する方が良いと判断いたしました。</p>
<p>国際交流関係費を留学生の奨学費として支出するのは本来の趣旨とは違うのではないかと。また、繰越金は返還してもらいたい。</p>	<p>国際地域学科を置く函館校では、どの専攻・グループに所属する学生であっても平等に留学の機会を提供しております。留学に当たっては、渡航費や保険料など多くの出費を伴いますが、経済的な理由により留学を断念することがないように、手厚い支援をしております。このような手厚い支援が函館校のアピールポイントであることをご理解くださいますようお願いいたします。</p> <p>また、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、学生が経済的に逼迫している状況にあることから、困窮学生への支援を最優先に考え、年度当初予算の枠組みを拡張する形にはなりますが、状況の変化に柔軟に対応しながら支援にかかる支出を行って参りたいと考えております。先日行われた総会においても、多数の父兄からそのような方向での意見をいただいております。このことから、今年度の予算執行においては、余剰金が生じる可能性は少ないものと考えております。ご理解のほどよろしくようお願いいたします。</p>
<p>海外への留学が難しく、遠隔による交流となることから、国際交流関係費をネット環境整備への活用などを検討いただきたい。</p>	<p>海外へ留学する学生は、尚学会からの支援のほか、様々な奨学費を活用して、渡航費以外にもネット環境も含めた学習環境を整えることとなりますが、状況を見極め、学生のニーズを把握し、柔軟に対応させていただきたいと考えております。</p>